

2350 | ガラス基礎実習Ⅰ

2 単位（面接授業 2 単位）

大村俊二教授

授業の概要と目標

工芸は、自然から得た素材を主な材料として生活の用具を制作する事である。素材の開発や制作技術の工夫、生活様式の変わり様が工芸の変遷を形成するが、基本的には自然素材に根ざした技術と造形の洗練さにその本質を見ることができる。ここでは伝統的基礎技術を実習することで素材と造形、制作技術と用途など工芸制作の基本に触れ、さらには今日の生活とモノの在り方について考察する。

この科目では、加熱することで液体状態に柔らかくなるガラス素材の特性を理解し、ガラスの粉末、粒、板などをキルン（電気炉）内で加熱し、変形、熔着による成形加飾する技法を学ぶ。

なお、この科目は 2013 年度まで開設された「工芸Ⅲ」の素材別ガラスクラスと同一の内容である。

課題の概要

○面接授業課題

キルンワークによる「菓子器」のデザイン・制作

授業計画

[面接授業]

- ・菓子器のデザインスケッチと配色イメージの作成
- ・型作り
- ・ガラス素材を配色イメージに合わせて配置
- ・キルンで加熱成形

成績評価の方法

面接授業の最終日に提出された図面や作品で評価し、授業態度等を加味する。

履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

・2013 年度まで開設の「工芸Ⅲ」ガラスクラスの受講者は異なる素材の基礎実習を受講することが望ましい。

・受講人数を制限する場合がある。

教材等

参考資料：横溝健志 監修『工芸』（武蔵野美術大学出版局 2002 年）